

# 全難聴女性部だより 第39号

平成30年1月27日発行 発行人：永末淑子 編集：事務局



## 新年のご挨拶

部長 永末 淑子

あけましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。地域の皆様方には、日頃から女性部活動をご理解してご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

役員一同、心より厚くお礼申し上げます。

昨年は九州北部豪雨などによる災害の多い年でした。福岡県朝倉郡東峰村は、福岡市から車で1時間半くらいですが、7月5日に豪雨が降り続き、緑豊かな美しい棚田の農村の家々を、裏山の大木と共に濁流と土砂が飲み込みました。

一昨年の熊本地震も突然の大地震で多くの方が被災されました。災害は突然に来るのですね。

昨年11月に開催された「全難聴福祉大会 in 東京」で私は第3分科会に参加しました。

「災害に備えましょう」というテーマについて、参加者同志で色々と話し合う時間もありました。難聴者や中途失聴者は、地震や緊急の災害の時には停電するときもあり、また高齢者が多いと連絡網で連絡するのも、なかなか難しい面もあります。

東京大会では、国立の施設なのでバザー販売は出来ませんでした。販売収入が無かったために、任意でご寄付を戴き皆様からの温かいお気持ちを嬉しく感謝申し上げます。

本年も、役員一同女性部の発展のために頑張りますのでどうぞよろしくお願い致します。



## ～戌年とは～

今年、戌年です。由来は、戌年の「戌」の文字が「滅」に由来して、そして、次に命を繋ぐとても縁起のいい年回りだそうです。そこで、さらにもうひとつ、とても心あたたまる戌年の意味を紹介します。



戌年の戌の字は「滅」に繋がります。それは滅びや朽ちるという意味ではなく、「新しい命を守る」という意味があるそうです。秋になり花が落ち冬になりその身は枯れ、表面上はうなだれていても内面の新しい命は守られ、力を蓄え続けている。

赤ちゃんを宿し時期がくると、縁起のいい日とされる戌の日に腹帯を巻くのも、ここからきているようです。安産のためだけでなく、「赤ちゃんを守ってもらう」という意味もあったのですね。

## 新年を迎え役員・県部長から抱負を一言

### 〈役員・県部長〉

#### ◇部長・福岡県部長：永末淑子◇

新年明けましておめでとうございます。

皆様にはお健やかに初春をお迎えになられたことと思います。

今年も各地域で元気に活動を楽しみ、交流を深めてくださるようお願いしております。

今年の全難聴福祉大会は、山口県下関市で開催される予定です。

本州の最南端にあり、向かい側が九州の門司に挟まれた関門海峡は、青い海原に大きい船が浮かぶ素晴らしい眺めです。大会で皆様との再会を心待ちにしています。

#### ◇副部長・奈良県部長：藤岡央子◇

昨年は全難聴福祉大会 in 東京に参加して、今迄観劇したくても出来なかったミュージカルやニューハーフショーを見ることが出来ました。どちらも難聴者に配慮されていて、さすが東京大会だと感心しました。こういった経験がもっと出来る様に、私達も声を出していかなければならないと思います。関西でもミュージカルの字幕付き観劇が出来る機会を作っていきたいと思います。

#### ◇事務局長・岐阜県部長：加藤千津子◇

明けましておめでとうございます。戌年の由来を紹介したように、30年度は、次に繋げる活動を心がけ、戌年にあやかり新しい気持ちで取り組みたいと思います。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

岐阜の部長として、9年目となりましたが、どちらの地域も後継者が難しい状態です。岐阜もしかりで、なかなかバトンタッチができません。行事の参加も高齢化も伴い年々減少気味ですが、長い歴史ある女性部の灯りを消さないよう頑張ります！

#### ◇事務次長・和歌山県部長：鳶尾東紫◇

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

部長になって6年目、まだまだ周りの方たちに助けながら協会の行事などに協力しているのですが、地元も高齢化してきて参加者が固定、さらには減少しつつあります。新たな会員を引っ張り込みたいし、若い人にも来てもらえるように努力していきたいなと思っています。

#### ◇事務次長・京都府部長：片山ひろみ◇

近畿ブロック女性部に復活し、そこでの丹念に練られた企画に参加を重ねることで、新鮮な情報が得



られ、また頑張っている女性仲間達の姿から良い刺激を受けて来ました。

更には全難聴女性部に於いても、総会や全難聴福祉大会で貴重な経験をさせて頂き、一層活動への意欲も増したように思えます。

今年はこれまでに培ってきた事を活かしつつ、事務局長への力添えができればと、次長としての気持ちを持つ次第です。どうぞ、よろしくお願い致します。

#### ◇会計：磯島都子◇

明けましておめでとうございます。

去年はバザー販売無しでしたが、その分、皆さまから貴重な協力金を賜り、自宅で丹念に整理しながらの充実した一年でした。有難うございました。

本年は山口大会ですが、バザー販売しながら全国の女性部と交流できれば良いですね(^\_^)。仲間との交流は心身の栄養源(?)です。その基を頂きながらワンダフルな一年となるよう女性部活動を頑張ります。皆さま、よろしくお願い致します。

#### ◇広報部長・兵庫県部長：庄司美絵◇

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

去年は不調が続き、また県難聴女性部の何人かも体調を崩していて、事務局を兼務したこともありました。私も介護で世話がが続いていますが、周りから助けて頂き、この女性部に入ってよかったと思っております。仲間は大切ですね♪広報担当になって半年、あまり動いていなかったことを反省しています。今年も、全国の難聴女性たちにホームページを見てもらえるよう、少しずつ更新と考えています。

全国的に若い人が入って来ない、益々の高齢化。この回避策について、各地域協会の女性部長の皆さま、どうか力を貸して頂けませんでしょうか！

#### ◇監査：塚本茂子◇

新年、おめでとうございます。

お正月の門松は、それぞれの家に歳神様が訪れるための目印と言われています。幸運をもたらしてくれる歳神様に素通りされないよう、我が家でも毎年シンプルですが門松を立てて新年を迎えています。

去年は全難聴女性部の会計を揺るがすような助成金の問題が出てきました。東京大会の懇親会で女性部3役が各テーブルを回りながら、全難聴役職の方々に頭を下げられていた真摯な後ろ姿が忘れられません。

この一年も中心に歩みを合わせていく思いでおります。良い年になりますように。

#### ◇監査・大阪市部長：高田郁代◇

役員としては、与えられた任務をただただ全うするのみです。

去年は、大阪府との合同でブロック交流会を無事に開催できホッとしましたが、私にとっては実行委員長があまりにも重い役目だったせいか、後半の活動には力が入らず反省しています。御自身の体調やご家族のお世話のため、女性部の活動に参加が困難になった会員が複数おられ、手痛い年でもありました。今年は何とか高齢化に打ち勝ち、充実した年にしたいものです。

#### ◇相談役：須山優江◇

全難聴女性部の皆様には良いお年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

会員の高齢化が進む中、活動も停滞しがちですが、女性部の力で全難聴を支えて行きましょう。  
今年も宜しくお願いします。

**〈県部長〉 『千葉県的女性部が復活しました！！おめでとうございます(^o^)]**

**☆札幌市部長：馬場順子☆**

本年もよろしくお願いいたします。

昨年の東京大会に参加し、実は大勢の方と交流できこれからも日々元気に活動参加出来たらいいなど実感しました。

さて、当会の女性部も高齢化し切に若い方の会員の入会を心待ちしています。

現実問題の活動としては、女性部、実年部それぞれの企画をお互いの担当と助け合っって一緒に実施していくのが一つの方法かなと思案していますが、会員の笑顔とお喋りが溢れるような活動をしたいと思っています。

**☆千葉県女性部長：高野 久乃☆**

あけましておめでとうございます。

昨年度から当協会では女性担当が復活いたしました。

新任で右も左も分からず、歴代の活動もこれから学ぶ状態です。

まずは千葉の女性たちに活気をとっています。よろしくお願いいたします。



**☆東京都部長；明田美奈子☆**

明けましておめでとうございます。

昨年の福祉大会では大変お世話になりました。お陰様で盛會に終えることができましたこと厚くお礼申しあげます。

全難女性部役員の方には懇親会で初めてお会いさせていただきました。

東京協会の女性部を若返らせるため、福祉大会の受付要員は既婚の若い女性会員に積極的に協力をお願いしました。女性部企画も若い役員のアイデアを取り入れ、仕事が休みの土曜日に行くなどを念頭に進めています。

少しずつですが参加者も増え、子供と一緒に参加するママさんも増えつつあります。万事スムーズにはいきませんが、もう少し頑張っって若い方にバトンタッチできるようにしたいと思います。

次回、山口福祉大会でお目にかかれますよう、楽しみにしております。

**☆茨城県部長：高橋喜美子☆**

新年おめでとうございます。

今年も成年、茨難聴女性部もワンワンと活発に進みたいところですが、新年度は先頭に立つ人がいなくて、先行きは不透明な状態です。

若い会員が一人でも多く入会して、女性部を盛り立てて下さることを祈っています。

**☆群馬県部長：渡辺澄江☆**

平成 29 年も各地での災害や、北朝鮮のミサイルが上空を飛ぶなど不安な事象の多い年でした。戦争だけはしないでほしいですね。

平成 31 年 4 月に現天皇の生前退位が決定し、今年も平成最後の年になります。内外共に平穩な年で

ありますようお願いしています。

全難聴の活動も、高齢化に伴い大変な状況になっております。女性部は、役員の方々を中心に頑張ってきました。継続は力なりと申します。力を合わせて活動をとしたいと思います。

本年も宜しく願いいたします。

#### ☆川崎市部長：伊藤雅子☆

謹んで初春のお慶びを申し上げます。ご家族の皆様と素晴らしい新年をお迎えになられたことと思います。

今年も笑顔とパワーあふれる仲間とアイデアを出し合いながら、マンネリにならないよう精一杯努力し、活動したいと考えています。

ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年も宜しく願いいたします。

#### ☆横浜市部長：主藤京子☆

新年あけましておめでとうございます。

昨年女性部部长を引き受けアタフタしてる間に年を越してしまいました。

我が女性部も皆さまのところ同様、高齢化が進み厳しい状態です。先を考えると本当に不安になります。若い力が必要です。しかし無い物ねだりをしては仕方がありません。副部长の中には親の介護をしながらの手伝い、年齢的に厳しいが役員の手伝いをしてくれて者もいます。

若いパワーは無いけれど円熟した賢い知恵があります。物事に興味があり元気が有ります。そして優しさが有ります。それら一人ひとりの元気な力と賢い知恵で女性部の活性化に繋げていければと思います。こんな横浜から今年は関東ブロック女性部研修会を開催することになりました。どうぞ横浜の魅力に触れてください。浜難聴女性部一同心よりお待ちしております。本年もどうぞ宜しく願い致します。

#### ☆長野県部長：浜富美子☆

新年明けましておめでとうございます。

全国の女性部の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと思います。

私ども長野県の協会は昨年10月から「特定非営利活動法人 信州難聴者協会」と改組し、新たな気持ちで出発し始めました。法人化と共に組織も変わってきましたが、女性部は継続して行くことになりましたので、他の部と協力しながら部員の親睦・協会行事への参加で盛り上げて行きたいと思っています。

#### ☆新潟県部長：大西邦子☆

新しい年を迎えて、私も年を重ねました。年取って穏やかになっていきたいと思いますが、どうも反対にせっかちで頑固になっていくようです。それでも仲間たちがそれぞれ支え合って助けてくれます。やさしい仲間たちと一緒に歴史ある女性部の活動を継続できるよう頑張りたいと思っています。

今年もよろしく願いいたします。

#### ☆滋賀県部長代理：久田三千代☆

「新年の抱負は？」と聞かれて考えたが、何も浮かばず、ただ健康でつつがなく（この、つつがなくが難しいが）過ごせればいいかと思うだけです。

滋賀県女性部も同じく高齢化が進んでいるので、来年度も現状維持であれば、御の字ではないだろうか？ それでも、毎月の例会や、隔月の機関紙発送など精力的に参加されるので心強く思っています。



す。

### ☆大阪府部長：橋川えみり☆

あけましておめでとうございます。

昨年は全難聴、近畿ブロック、そして地元の活動、すべてにおいて中途半端であったことを申し訳なく思っています。

今年はあるもこれもと気負わず、せめて基本の地元活動を丁寧に地道にやっていきたいと思うばかりです。おおらかに見守っていただけますよう本年もよろしく願いいたします。

### ☆神戸市部長：竹内かづゑ

明けましておめでとうございます。

活動をお手伝いさせて頂き、はや、2年になろうとしています。その間、失敗の連続でしたが、皆さんの温かい励ましで続けてこられたことに感謝しています。何よりも活動していく中で、大切な友を得、私の宝物となっています。そして今年こそは！と自分で自分を叱咤激励しながら、尚一層のご指導をいただければ幸いです。

## 第23回 全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 東京 感想

### 「劇団四季バリアフリー観劇」『ライオンキング』

バリアフリー観劇ミュージカル「ライオンキング」を観賞して

奈良県 藤岡 央子

11月4日(土)、申し込みをした8月1日からずーっと待ち遠しかった「ライオンキング」を観賞する時がいよいよやってきました。

当日は8:50 新大阪発のぞみ116号に乗車、新幹線ホームで和歌山の蔦尾さんらと落ち合いました。11:34に会場への最寄り駅大井町に到着し、約5分位歩くと白いコンクリートの建物が見えてきました。劇団四季、「夏」シアターです。

会場付近はもうすでに人混みで満員電車のような様子でした。受付でチケットと字幕機を受けとり、顔見知りの友達と再会の挨拶をしているうちに、劇場内ロビーでの説明が始まりました。

どのようにして字幕がつけられるのか…と興味津々でしたが、ポータブルの字幕機(字幕ガイド)が1人1台ずつ貸し出され、上映中はお芝居のせりふや効果音はそのシーンに合わせて表示されるというものでした。字幕ガイドはタブレット端末くらいの大きさで、下方にボタンが4つ並んでいますが、上映中の操作は必要ありませんでした。ただ「上映開始の時にENTERのボタンを押してください。」と説明されたのですが、隣の座席の方は聞いておられなかったのか…戸惑っておられたようなので、教えてあげました。年配の聴障者にはこういう機械の操作は分かりにくいかもしれません。

さあ、いよいよ「ライオンキング」のスタートです！

幕が上がると悠然と歩く2頭のキリンが現れました。長い棒状の脚の上に、長い首の被り物を被って四つん這いで歩いています。「俳優さんは大変だね～」と思った瞬間です。巨大なゾウ、シマウマ、チーターと次々に知っている動物が現れ、舞台や客席を埋め尽くしていきます。それぞれの姿や躍動感が巧みに表されていて、見ているうちにアフリカ大陸の世界に引き込まれていきました。音楽も繊細な調べは私の耳には分かりませんが、「ドゥンドゥン、ダムダム…」といった太鼓の響きが全身に響き、あとで知ったのですが、あのエルトン・ジョンの音楽に合わせて躍動するダンサーの踊りに圧倒されました。

ただ、字幕機の文字を追いながら、舞台の動きも観るので少々疲れまして…

ストーリーはディズニー映画で既に知っている人はご存知の通り、ライオンの王ムファサは息子シンバに生命は永遠に受け継がれるという自然界の理念を教える。シンバの叔父スカーが王位を狙い、ムファサを殺害する。このムファサがシンバを助ける為にヌーの大群に巻き込まれてしまうシーンなのですが、影絵の手法を使い前後の遠近感でヌーの大群の暴走を上手く表していました。つまり3~4段の前後になったスクリーンに遠くから段々と大きくなったヌーのシルエットが押し寄せてくる様に影絵を動かしている…といった手法です。あと動物たちの動かし方に、人形浄瑠璃の技法を取り入れていて、なかなか面白いものでした。

自分のせいで父が死んだと思いこんだシンバは群れを離れ、プンパアやティモンといった友と出会い、「ハクナ・マタタ（くよくよするな）」の歌に励まされ立ち直る。このハクナ・マタタというのは、アフリカのズールー語ですが、これが全く聞き取れなかった…

猿の祈祷師、ラフィキの歌は殆どズールー語で歌われていましたが、字幕機の文字も読み取れなかった…辛うじてハクナ・マタタだけ知っていたので、聞き取れたという次第です。

ミュージカルの俳優さんはやっぱり凄い！と思いました。

そして成長したシンバの前に幼なじみのラナが助けを求め、シンバはスカーと対決すべく故郷を目指す。スカーを倒し、ライオンの王になったシンバの下に動物たちが集まって、圧巻のフィナーレを迎える…最後は感動で泣いてしまいました。

直に聞く圧倒的な歌唱力とダンスに、聞こえない私達の耳にも感動は伝わってきます。もう1度見て、また感動したいと思いました。



## 第二分科会感想

茨城県 佐藤 緑

全難聴は、全要研と要約筆記事業を取り巻く問題についてワーキンググループを作りました。28年から30年3月までが第二次グループで、1、会話支援機器 2、要約筆記事業の担い手 3、文字情報（字幕・筆談）と要約筆記の整理の観点から、話し合いを進めています。

総合支援法施行により支援対象者は失語症や発達障害者に拡大、雇用促進法改正や差別解消法により手帳を持たない者も支援対象となりました。全国統一要約筆記者試験が実施されて5年。厚労省からその専門性が認められた要約筆記の通訳性に対し、音声認識や字幕は責任の所在があいまいで、今後の課題とされました。また、要約筆記の場面やニーズは様々。要約筆記事業体はコーディネーターを資格化、現任研修、他機関との連携などの多様な事業実施・運営能力を有する人が必要。養成・派遣未整備地域に働きかけ、雇用契約や報酬単価の一律性などについて法整備の提言を作る、としました。

パネルディスカッションでは、最近のAI技術進展、音声認識による会話支援機器の誤変換を見て、正しく音声認識するように話者が気を付けて話すようになる利点もあることなどが話されました。

私は、音声認識のアプリを自分の発音リハビリに楽しく活用している方を思い出しました。補聴器・人工内耳の技術向上と同様、音声認識で難聴者自身がひとりで出来ることが増えると予想しますが、人の支援が全く不要になるとは思いません。言われた通り、書かれた通りの言葉でも、人によって全く受け止め方が違ってくる怖さがあります。災害時などに、手話を知らない人が取り残される場面もありま

す。技術革新と要約筆記の支援のあり方は将来変化はあっても、人の力を大事にしていく必要性を感じます。ワーキンググループで議論される、新しい技術に伴う責任問題の行方も見守っていきたいです。

### 第三分科会感想 「活用しよう！防災マニュアル」に参加して 西東京市 鈴木 敦子

地元東京で開催されたので、初めて全難聴の福祉大会に参加しました。

どの分科会に参加するか迷いましたが、昨今、日本列島を様々な災害が襲い、東京直下地震のリスクも高まっている中、他人事ではないと思い、防災関係の分科会に参加してみました。

みやぎ・せんだい中途失聴難聴者協会副理事長松崎さんからは、東日本大震災における災害対策宮城本部立ち上げから、支援活動の実態、熊本県難聴者中途失聴者協会理事長宮本さんからは、熊本地震発生直後の映像も交えた支援活動の流れ、東京都中途失聴・難聴者協会副理事長木村さんからは、防災委員会の設置、活動の発表がありました。

東日本大震災や、熊本地震に関する、安否確認、避難所、仮設住宅巡回、メンタルケアなどの支援活動報告は、現実的で、大変参考になりました。

パネリストの報告の後、たまたま隣り合わせになった2～4人のグループで20分ほど、発表された課題、災害時に不安に思っていること、協会で実施してほしい支援などをテーマに、ディスカッションしました。とても賑やかに盛り上がりました。グループ代表が6人ほど、次々に積極的に発表しました。

FAX、メール等々、デジタル壊滅状態になった時は、アナログ手段が大切とか、深夜、補聴器をはずしている時、災害に見舞われたら？補聴器の電池は？とか、内容も実践的、具体的で面白く共感できるものでした。

私は、西東京市中途失聴・難聴者友の会ポラリスに属し、毎年、西東京市の防災訓練に参加したり、個人的にも多少の備えはしていますが、いざ災害に見舞われた時に十分とはとても思えません。難聴の身で、猫と一人住まいなので、困難なことも多いと思います。

今回の分科会で、まず、自分の身は自分で守ること、普段から近隣と親しくして、災害時には、遠慮せず、難聴の身であることを伝え、積極的に情報を得ることが大切と、再確認しました。



### 第四分科会感想

「考えよう！職場でのコミュニケーションの壁に、どう立ち向かえば良いのか。」

ぎふ難聴者協会 園部洋美

講師

発表者

若林 亮 氏(弁護士)

佐々木 京寿(東京都プリプレス・トッパン (株))

田島 久美子(雪印メグミルク (株))

講師、発表者共に大変立派な経歴、また職場での華々しい活躍振りを拝聴している中で、今まで、受けてきた心ない言葉や、また理解ある職場の話の伺い、一同、やはり障害者といえど、会社に利益をもたらすことができないと、発表者の会社のような厚遇がないのだろうかと思いはじめてたが、1聴講者から、ここにいるメンバーは、そういった事にも恵まれたわけではない。雇用主へ、手話通訳者や要約筆記記者、UDトークなど自分はこの補助があれば、みなさんの期待するだけの仕事ができるとアピールしなければ、仕事がしづらい状況から抜け出せない、という言葉が。発表者の田島さんも「業績があったから環境を変えられたというより、会社に貢献するために何が必要と訴えることはもっと大切。」今後は、



業績のあるなしではなく、会社の構成員として、必要な情報の共有は大切なことと社会の考え方が変わってきている。また、要求の仕方良い事例、悪い事例を集めミニマムスタンダードを上げていく、全難聴理事会へも、職場における事例集を作成して発行することを、要求して行くこととなった。

最後に講師、発表者より力づくよく、諦めずに、要求していきましょうと締めくくられた。今大会の記録の発行が、待ち遠しいことです。

## 第五分科会感想

「聞こえにくさと向き合う」～聞こえにくい方の家族や周囲の方のために～

横浜市中途失聴・難聴者協会 小川 由恵

全要研理事長 三宅初穂氏をファシリテーターとして迎え、終始穏やかな雰囲気の中で分科会が進行していきました。

先ず、都中難協の渡辺江美さんのお話からでしたが、江美さんのお母様は、東京の女性部で活動をされていた方で10年程前にご逝去されました。

江美さんから、聴こえにくいお母様を幼少の頃からサポートしてきた体験談と大学生の頃にお母様の遺伝を受け継いで今度は自分が難聴者になってしまいサポートされる側となった体験談、両方の立場でのお話を伺いました。

サポートしてもらおう相手との関係が夫婦、親子、親友であった場合、お互いに大事に思っているのだけど、我儘が出たり気遣いに疲れてしまったりしてお互いの思いがすれ違い悲しい思いした経験は、皆さんにもあると思います。素敵で可愛らしく成長した渡辺さんのお嬢さんからお話を伺い、あまりにも早く突然に逝ってしまった天国のお母様のことも合わせて偲ぶことが出来たことは、私にとって有意義な時間でした。

休憩後、杉内智子医師の講演「耳の仕組みと聴こえ」聴覚に障害があるとは、どういうことなのか解説して頂いた後、「健聴者の難聴体験」を行いました。第5分科会では、申込み116名中、約1/3が健聴者の参加だったそうです。

人工的に歪んだ音声で童話を朗読し「補聴器で音入るが言葉が聞き取りにくい」状況を疑体験してもらいました。これで難聴者の気持ちが理解してもらえたか疑問です。

盛りだくさんの内容だったのであつという間に時間が経ちました。

ラストに分科会スタッフが自主制作した渾身のDVD鑑賞があり、難聴者がコンビニやご近所で遭遇する再現シーンを見ていて「そうそう、あるある」と思わず頷いて苦笑しましたが、聴こえないからとよくよするのではなく、健聴者への説明や対処法をきちんと身につけておく必要があると改めて実感しました。

## 第五分科会感想

大阪府 黒瀬由紀子

11月4日、5日、と大会に参加した。分科会は第5分科会。「聞こえにくさと向き合う」というテーマ。健聴者が3分の1ほどの参加。

全要研の三宅さんとお母さんが難聴者という方との対談があった。小学生の時から、お母さんの耳代わりとなって、学校からの電話連絡なども受けていたそうだ。早くから大人の世界に関わってきたんだなと思う。

友達の家遊びに行ったとき、カルチャーショックを受けた。お母さんとの会話を顔も見ず声だけで

話をしていたから。自分はずっと、お母さんに合図をし、顔を見て話をする。一人ずつ話し、相手に伝わるように話すのが普通なのに。自分が普通だと思っていたことが、ほかの人には普通ではないということがショックだったと。聞こえる人、聞こえにくい人それぞれに「普通」はあるのだ。

健聴者に対して、難聴体験というのがあった。お話を読んでいるテープを流し、聞こえるかどうか尋ねられる。私には聞こえていないので、どんなものかわからないが想像するに、チューニングの合っていないラジオのような？思わず眉間にしわがよる人もいたりして。

「難聴者ある！ある！」というVTRも力作だった。コンビニのレジでのやり取り、病院での対応時のマスク、ご近所さんとの会話。難聴者には身につまされる話ばかり。病院でのマスクは、勇気を出して「聞こえないので取ってください」と言うべきけど、コンビニやちょっとした世間話は「テキトー」に聞き流してしまうことがある。「テキトー」に笑ってごまかして、それが「フツー」になるのも悲しい話だと思う。

「ナイトツアー」にも参加した。キレイなお姉さんがいっぱい。車窓の夜景は大都会。東京タワーはしっかり足を踏ん張って立っていた。立派だなあ。



## バザー協力金の報告

■ 昨年の東京福祉大会では、バザー販売が禁止となったため、バザー協力金をお願いしましたところ、多数の団体、個人様からご提供いただきました。役員一同感謝とともにお礼申し上げます。ありがとうございました。以下ご報告します。

### 【団体】

(一社)札幌市中途失聴・難聴者協会：5,000円、(特)茨城県中途失聴・難聴者協会：3,000円  
(特)福岡中途失聴者支援福祉協会：3,000円、(特)ぎふ難聴者協会：3,000円、東海プロック(愛知県・名古屋市・三重県・岐阜県)：3,000円、京都府難聴者協会：3,000円、(特)信州難聴者協会：5,000円、(特)大阪市難聴者・中途失聴者協会：3,000円、横浜市中途失聴・難聴者協会：3,000円、奈良県中途失聴・難聴者協会：3,000円、佐賀県難聴者・中途失聴者協会：3,000円、新潟県中途失聴・難聴者協会：3,000円、和歌山県中途失聴・難聴者協会：3,000円、(特)大阪府中途失聴・難聴者協会：3,000円、川崎市中途失聴・難聴者協会：3,000円、

### 【個人】

福岡市：永末淑子 3,000円、岐阜県：加藤千津子 3,000円、岐阜県：要約筆記者毛利静香 1,000円、京都府：片山ひろみ様 3,000円、横浜市：飯島サダ様 3,000円、奈良県：藤岡央子様 3,000円、さいたま市：松島みどり様 3,000円 / 合計 68,000円

引き続きバザー協力金を3月末まで、呼びかけます、ご協力ご検討よろしくお願ひします

振込先

郵貯銀行 記号 10080

番号 70359361

口座名義 全難聴女性部(ゼンナンチョウジョセイブ)

近畿ブロック女性部「談笑会」を終えて

滋賀県 久田 三千代

10月14日(土) 滋賀県草津市聴覚障害者センターで、近畿ブロック女性部「談笑会」が行なわれた。参加者は大阪市2名 大阪府2名 京都府2名 奈良1名 神戸1名 和歌山1名 滋賀12名の総勢21名だった。

この「談笑会」の、そもそもの発端は会話からだった。5, 6年前だったろうか、どんどん悪くなる「聞こえ」に悩んでいた私は、当時大阪府の女性部長だったKさんに「聞こえの悩みがあっても、相談する人も場所もないね」と話していた。他府県の部長さんも加わり、いろいろ話しているうちに、近畿ブロック女性部で場所を提供し、普段交流のない会員の人も参加出来るそんな会があったらいいね。と話しがはずんだ。それから何年もしないうちに大阪で一回目の「談笑会」が立ち上がったというわけである。二回目が京都府で三回目が滋賀県である。悩みの相談から大幅にずれ交流が中心になったが、一時間以上も電車に揺られて来てくれるのだから、何をしようかと頭を悩ませたが、一人一人話してもらおうのがいいのではと、役員で話し合い、その後講師を呼び自彊術体操をしてリフレッシュしてもらおうと決まった。当日、近畿ブロック女性部副委員長の奈良県の藤岡さんの挨拶から始まり、滋賀県女性部の竹下事務局長の司会で進められた。5つのテーマを出したが、何歳で難聴になりその後の人生を話す人が多かったのは、やはり「難聴」にどれだけ悩まされたかの証しだと感じた。人工内耳を付けている人も多く、大学時代にヨーロッパに一人旅をしたのがその後の人生の糧になったというのが、私には一番印象に残った言葉だった。が、難聴にも負けず皆さん頑張ってくれた方ばかりで嬉しい限りである。その後、講師と一緒に自彊術体操を始めた。自彊術体操とは、大正時代に考えられた体操で基本中の基本。これを基にラジオ体操がつけられたと言われている。県外の方は初めての体験者が多かったのも、終わった後ポカポカしたと喜ばれて帰ったので嬉しく思った。



しかしその後、「話しを聞いた後に質問や意見交換などしたかった」という意見があり、ごもっともと思った。県外の方を呼んでの交流会の難しさをひしひしと感じた「談笑会」だった。

地域の活動より

NPO法人 川崎市中途失聴・難聴者協会女性部

伊藤 雅子

川難聴は創立後26年になります。平成18年7月川崎市で全国女性部大会を開催後、前女性部長が辞任し女性部の活動が休止となりました。私は以前から、全難聴婦人部で役員をしていた関係で、翌年、女性部長になり女性部を復活させました。会員は高齢者が多く、若い方の入会がない状況の中で活動を継続しています。平成27年4月からNPO法人計画を進め、8月9日にNPO法人登記が完了し、特定非営利活動法人として出発しました。

毎年3月は、茶話会を兼ねて「反省会&次年度計画」をします。女性部として独自で開催する行事は年6回位です。他に、お花見会、センターまつり、日帰りバス旅行等は協会の例会行事に参加し協力しています。協会に高年部がないため、女性部で企画した行事は、男性の参加も認めています。毎年開催の料理講習会でも男性が料理をします。料理はしないけど食事のみに参加する方もおります。会食しな

から講師の方と交流を深め楽しく過ごしています。

毎年5月は、川崎市聴覚障害者情報文化センター主催の「センターまつり」が開催され、毎回、バザー出店と手話ダンスを披露しています。今年は、特別講演会もあり、ろうと難聴の違いを知って貰うための講演で、難聴者の立場から話をしました。

秋は「多摩川の里フェスティバル」と社会福祉協議会が主催で中原区役所を会場に「なかはら福祉健康まつり」を開催します。このまつりは、展示・発表・模擬店・体験等を地域の皆さんに「福祉とは何か?」「健康とは何か?」を正しく理解してもらうにはどんな工夫が必要か?福祉・健康をPRすることが最大の目標として、団体同士の連携を深めています。野外のテント内では会員からの献品を販売します。売上げだけを目的にはいけないので値段を安くしています。閉店に近い時間になると衣類などを無料で持ち帰ってもらいます。また、中原市民館内の市民活動センターで開催される「ごえん楽市フリーマーケット」でもバザー出店はできますが、抽選で決められる為、出店できない時もあります。しかし、バザー出店の機会は年に3、4カ所であり恵まれています。バザーの前に皆さんで値付けをしますが、今は物も安く購入できるので100円前後の値段です。

今年の新年会は、昭和初期の邸宅を改造した店でフランス料理を楽しみます。男性も要約筆記者も参加し盛り上げてくれると期待しております。

### ——30年度ブロック「集い」開催予定——

#### ◆東海ブロック

日時：平成30年10月又は11月

会場：岐阜市民福祉活動センター大会議室

テーマ：仮「まさかのときに備えよう」防災グッズ作り

主管：NPO法人ぎふ聴者協会

実行委員長：加藤千津子

#### ◆関東ブロック

日時：平成30年10月7日（日）12：00～17：00

会場：横浜市健康福祉総合センター 8A・8B

テーマ：「横浜～素敵な夫婦の講演とミニ散策」

主管：横浜市中途失聴・難聴者協会女性部

実行委員長：主藤 京子

#### 事務局だより

＊各ブロック長、県部長が交代するところは速やかに事務局までお知らせください。

＊29年度の活動を、5月中旬までに地域のブロック長に報告してください。役員会で審議し該当地域には活動助成金を支給します。

#### ＊平成30年度役員会・県部長会・総会の日程

日時：平成30年6月29日（金）～7月1日（土）場所：兵庫県立聴覚障害者情報センター

〒657-0832 神戸市灘区岸地通1-1-1 灘区民ホール2階

FAX：078-805-4192／TEL：078-805-4175

※案内は後日、各県部長に輸送します。

1年に一度の会議です、万障繰り合わせていただき、ぜひともご出席いただきますようお願い致します。

皆様からの情報、投稿をお寄せください。また、ご意見、ご要望などありましたら事務局までお知らせください。

事務局：加藤千津子（岐阜県） FAX：058-242-2829 Eメール：chizuko@pcdocwin.jp

